

大阪国語教育アセンブリー2016 <開催要項>

—自分を見つめ、社会をつくることばの教育—

ことばの教育について、広く自主的に研鑽しあう集会として誕生した「大阪国語教育アセンブリー」も、今年で4回目を迎えます。「何のための国語教育か」、「対話が紡ぐことばの学び」、「豊かな未来をつくることばの学び」とこれまでの3年に設定した開催テーマは、現在ますます重要な課題となってきました。過去3年に、各方面からのべ500名を超える方々にご参加いただきました。

「大阪国語教育アセンブリー2016」は、「自分を見つめ、社会をつくることばの教育」をテーマに開催します。若い世代がことばに信を置き、仲間や社会と向き合い、つながっていく、そのことに資することばの教育の重要性と必要性。今回のテーマ設定の背景には、その課題を若い先生方とともに、広く共有したいという願いがあります。このテーマの意義は、日々増してきているように思います。次の世代へのことばの教育の根本には、学び手の価値観をゆさぶり、鍛えるという要素が必要だと信じます。

全体会では作家の**高橋源一郎**氏をお招きし、講演していただく運びとなりました。高橋氏は、深い内面から紡ぎ出されたことばを、自分自身や社会に向かってぎりぎりのところで届けようとする書き手です。そのことばは、読む者のところにダイレクトに届き、気づきを与えます。ご講演は、ことばが社会をつくるということの意味を考え直す機会となり、今後の授業実践への励ましとなることでしょう。

分科会は、「自分を見つめ、社会をつくる学びの実践」をテーマに、5つの会を予定しています。第1分科会では、高橋源一郎氏の講演を受けて、氏の文章にふれながら、幅広い討議ができればと考えています。また、第2～5分科会では、「自分を見つめ、社会をつくる学びの実践」という視点から、国語の授業について具体的に話し合うことができるよう企画しています。分科会の後は、再び全体で集まり、分科会での成果を共有します。

今年度も「自主的」「本質を問う」「参加者はことばの教育に関わるすべての人」「若い先生方にやさしく」などのコンセプトを継続させて開催します。国語科の教員だけでなく、ことばの教育に関心のある方々に広くお集まりいただける会です。お忙しいなかとは存じますが、なにとぞご参会いただきますよう、お願い申し上げます。

大阪国語教育アセンブリー

検索

■日 時 平成28年7月30日（土）13:00～17:00

■会 場 大阪府立今宮高等学校 多目的ホール・会議室他

〒556-0013 大阪市浪速区戎本町 2-7-39 電話 06-6641-2612

（地下鉄大国町駅より南 300メートル、JR・南海新今宮駅より北西 300メートル）

13:00～ 13:20	受付			
13:20～ 13:30	開会・概要説明			小山秀樹（今宮高校・指導教諭）
13:30～ 15:00	全体会	講演	「ぼくらの学校なんだぜ」	高橋源一郎（作家）
		進行	島崎英夫	（大阪教育大学教授 本会前理事長）

●講演者紹介：高橋源一郎（たかはし げんいちろう）：1951年広島生まれ。作家。明治学院大学教授。小説、評論など多数の著作のある、現代を代表する作家。2005年度より明治学院大学で「言語表現法」の授業を担当。また、文芸時評、論壇時評などを通して、現在の個人と社会のありようを分析、幅広く発信を続けている。作品は「優雅で感傷的な日本野球」（三島由紀夫賞）、「日本文学盛衰史」（伊藤整文学賞）、「さよならクリストファー・ロビン」（谷崎潤一郎賞）など多数。高等学校国語教科書にも掲載作品がある。

15:00～	15:20	休憩・移動
15:20～	16:20	分科会 自分を見つめ、社会をつくる学びの実践
第1分科会	〈講演から学ぶ〉	若い世代が高橋源一郎氏に学ぶ
	協力	鈴木寿（箕面高校・指導教諭） 榊井英人（北野高校） 御手洗靖大（同志社大学） 辻村知夏（京都市立芸術大学） 増田優奈（関西大学） 協議参加 現役高校生
▼高橋源一郎氏の講演をふまえて、大学生や高校生など若い世代が、フロア みなさんも交えて、ことばや教育について考えます。		
第2分科会	〈古典から学ぶ〉	説話で学ぶメディア・リテラシー
	司会進行	笠原美保子（神奈川県立光陵高校） 小股亜希子（大阪府教育センター附属高校）
▼説話「絵仏師良秀」を様々な視点からニュース番組にするという授業実践を題材にします。ワークショップや意見交流を通して、古典を考えるための教材にする可能性を探ります。		
第3分科会	〈活動から学ぶ〉	身体障がい・知的障がいのある高校生とスピーチ大会を作りあげる
	司会進行	中串かおり（西淀川支援学校） 入江慶子（刀根山支援学校・指導教諭）
▼自分の日常や思いを文章にすれば、自分の「障がい」をどう認識しているのかが、自ずと露になってしまう。さらに、それを他人に伝えるには？——聴覚、視覚支援校等でスピーチ（弁論）大会の指導をした経験から、ともに考えていきたいと思ひます。		
第4分科会	〈意見交換から学ぶ〉	ことばが未来を拓く
	司会進行	—現代文（評論）と国語表現の授業から— 会田博子（貝塚南高校・指導教諭） 戸野佑亮（槻の木高校）
▼食べ物が身体をつくるように、ことばは私たちの精神世界をつくり上げます。「すごい」「ヤバイ」だけで全てを済まそうとする現状から脱却させるために、国語の授業でできることは何でしょうか。実践例を紹介しながら、ぜひ意見交換をさせていただきたいと思ひます。		
第5分科会	〈繋がりから学ぶ〉	弱さが力に
	司会進行	—繋がる国語授業— 荒牧景子（箕面東高校） 藤澤麻紘（千里青雲高校）
「どうせやってもできない」、自信やヤル気を削がれてきた生徒たちが、助動詞表を片手に古文を訳したり、難しい評論(開高健「ムダこそ自分を～」など)に挑戦しています。聴き合い、繋がり合う関係がいかに内なる力を引き出すか、共に考えましょう。		
16:30～	17:00	全体会（分科会報告・連絡）・閉会

- 参加費 無料
- 主催 大阪府高等学校国語研究会 大阪府立今宮高等学校
- 協力 大阪府教育庁
- お申込み方法 別紙のFAX用紙か今宮高校HPよりお申し込みください。
(最終〆切7/27。会場の関係上、定員250名に達した時点で申し込みを締め切ります。)
- お問い合わせ 大阪府立今宮高等学校 TEL 06-6641-2612 (FAX 06-6645-7608)
国語科 小山秀樹まで